

## 第1回研究設備センター先端研究設備部門会議議事録

日時：平成26年5月20日 16:00～17:00

場所：東8号館4F会議室

出席者：青山、守屋、桑原、加藤研究支援員、野崎（敬称略）

### 審議事項

#### 1. 予約システム利用の徹底および利用状況の閲覧

(ア) 機械・ロボット室では十分に活用されていないので、必要があれば名倉さんに予約システムの利用方法を説明していただく。

(イ) 光・バイオ室では「活用しているはず」とのこと。

会議後加藤研究支援員が昨年度の利用状況を確認したところ、超純水製造装置以外は集計されていないので予約システムを活用するようにする。

(ウ) バージョンが変わったものの、利用方法は旧バージョンの利用方法と同じで構わない。

(エ) 利用状況のデータは現在システム管理者のみが閲覧できるが、研究設備センターのHPの右下にバーナーを設け、利用状況を表示させ、誰にでも見えるようにする。更新の頻度については検討する。また、6月末にはベータ版が起動はじめるのでそれに合わせて利用状況の閲覧をHPに掲載するようにする。

(オ) 以前、懸案となっていた使用記録では、現在は、予約の時間が使用記録にコピーされるよう改善されている。

#### 2. 装置の更新および設備マスタープランについて

来年度の概算に、今年度文科省に認められなかった先端研究設備部門から要求した先端ナノマシン材料システムが含まれることが部門長より別紙1-1に基づいて報告された。また、申請書は、本学が強化しようとする医工分野を反映するよう修正することにした。

#### 3. 今年度の運営について

今年度の部門委員会は、野崎部門長、青山室長、牧室長、守屋先生、桑原研究設備センター教員、加藤研究支援員から構成される。事務補佐は、荒木さんが担当する。

#### 4. 今年度の予算（設備の維持・運営）及び会計

今年度の予算配分は、別紙1-2に基づいて審議され、提案を認めた。装置につく維持費については、別紙1-2bのように財務より連絡があり、従来通りその装置を管理している室に配算する。ナノ微細加工と3Dマイクロ加工機について維持費については、昨年

度のように購入費の割合で材料・デバイス室と機械・ロボット室に配分する。別紙(1-2a)に示されるように、先端研究設備部門に配分された運営費が 13%昨年度の額より減額されたため、各室への配分および運営費をそれぞれ 13%減額した。光熱費については、運営費から支払う。節電が大学より要請された場合はできるだけ従う。使用についての課金については、当面使用者に課さないが、大学からの運営費で施設維持ができなくなった場合将来検討する。基盤研究設備部門と異なるのは、利用者が複数の設備を利用しているため課金を設備ごとに行うことが難しい点である。昨年度の各室、各装置ごとの会計報告は、別紙 1-2c-e に示され、承認された。材料・デバイス室は基盤研究設備部門から借りていた金額は全て返却し、代わりに低温部門から新たに借用した。低温部門へは、今年度初めに返却する（足りなくなったら再び借用の可能性有）。

## 5. 広報

(ア) 施設利用説明会（基盤研究設備部門と合同？）いつ、どのように行うか？

先端研究設備部門の材料・デバイス室では、常時登録施設利用者には、説明会を毎年年度初めに行っている。今年度も、先端研究設備利用希望者を幅広く募るため学内にメールを出した。また、各装置の講習会で必要と思われる場合は、講習会の案内を全学に研究設備センター長の名前で研究推進課に依頼してメールで送る。先端研究設備部門全体の説明会を行うか検討したが、現時点では各室で行ってもらうことにした。材料・デバイス室の説明会は、5月22日に行うが、毎学期初めに行うことも検討したが、当面は年度初めにのみ行うこととした。

(イ) ポスター（研究設備、研究）の作成

東8号館の研究設備紹介のパネルは産学官連携 DAY に間に合わせるように、研究紹介のパネルは、9月末をめどに更新することにした。研究設備センターのパンフレットの作成は桑原先生が検討することとなった。

(ウ) ホームページの作成

ホームページのコンテンツについては、研究設備センターのパンフレットと一緒に上水さんと相談の上9月末までに作成することとなった。

(エ) 研究成果報告書（基盤研究設備部門、低温部門と一緒に）

昨年度同様、web掲載のみとし、その原稿を9月末をめどに集めることを確認した。

(オ) 産学官連携 DAY での施設公開

昨年度同様、材料・デバイス室2名、機械・ロボット室1名、光・バイオ室1名のTAと研究支援員により公開し、クリーンルームの見学も実施する。

(カ) 内部利用者の拡大、課金

引き続き、内部利用者を増加させ努力を行う。光・バイオ室では、新たにSの三瓶先生が設備を利用している。

6. グループ間の連携をどのようにしていくのか？研究基盤部門との差別化？  
室の研究内容が異なっているため連携が難しいことが指摘され、新たに医工の分野での連携が期待される。
7. カードキーの再発行  
カードキーの再発行はまとめて荒木さんが管財に依頼する。カードキーの再発行の手順については、後日加藤研究支援員がメールで部門員に知らせる。